

# 摂南大学における IR のためのアセスメントの取り組み

摂南大学 教育イノベーションセンター ・ IR センター 寺内睦博 \*

## 概要

摂南大学で準備を進めつつある学生の基礎能力調査、生活・意識の実態調査、ルーブリックを用いて学生自身が自己評価する DP の達成度調査の状況と問題点について報告する。

## 1 はじめに

摂南大学は2キャンパス、7学部13学科からなる中小規模の私立大学である。<sup>\*1</sup> 以前からの事務職員による学生データの分析を引き継いで、2016年よりIRセンターにおいて教員スタッフを中心とした活動を行なっている。従来から大学の保持する学生データに加えて、2016年度からは出席データの電子化、さらに2016-2017年度は外部テスト(ベネッセの大学生基礎力調査)の結果を用いて、学修、中退、就職の動向の分析を行ってきた。しかしながら、学園法人からの特別会計予算も打ち切りとなり、当初予定していた隔年調査による学生の実態比較による学修効果の例示はおろか、毎年の新入生調査も実施できないことから各種調査の内製化を迫られた。また、従来、事務職員主導で行われてきた新入生アンケート(主に受験生獲得を意図した入口の意識調査)も1本化する動きがあり、各部の思惑が錯綜している状況である。アンケートの完成形を見るにはまだ時間がかかりそうであるが、学生の実態把握は急務であるため、実態調査のみは進行しつつある。

一方、昨今の学生の質保証担保のために、当大学でもディプロマ・ポリシー(以降DPと表記)からそれを構成する能力を具体化し、在学期間でのそれらの能力の伸びを評価するための検討が行われ、一つの能力をさらに分割してそれらの達成度合いを評価するルーブリックを作成した。このルーブリックを用いて学生自身に自分の達成度を評価してもらうことを想定している。

本稿では、(1)ルーブリックによるDP達成度評価、(2)生活・意識の実態調査、(3)学生の基礎能力調査の3点についての取り組みを紹介する。

## 2 ルーブリックによる DP 達成度評価

建学の精神および教育の理念に則り、全学共通の7つの要件からなるDPが立てられている。教務(学務)委員会の下部にアセスメントの小委員会が設置され、これらの要件を詳細化する形で、以下の10項目ごとにルーブリックを立案した。

1. 多角的な視点を培うための幅広い基礎知識を身につける
2. 問題解決のための情報収集・分析、問題発見、計画的な解決策の立案などの思考力と判断力を身につける
3. 自らの判断や行動が社会に与える影響を理解し、円滑な社会生活のためのルールやマナーを遵守する
4. 問題解決における自らの立場を理解し、他者に配慮しながら協調する力を身につける
5. 教養および専門知識を主体的に学び続ける意欲・態度を身につける
6. 多様な人々との円滑な意思疎通を図るために必要な傾聴力・伝える力を身につける
7. 日本語運用能力による読む力、書く力を身につける
8. 外国語運用能力による読む力、コミュニケーションの力を身につける
9. 説得力のあるプレゼンテーション能力を身につける
10. 情報を収集・整理する数理能力および情報リテラシー能力を身につける

上記の10項目のままではまだ抽象的であるので、各項目に3つの質問を作り、各質問に対して具体的な5つの選択肢を示し、その中からひとつを選ぶ五者択一で回答を得ることとした。紙面の都合上、質問の詳細は発表時に示す。各項目について3つの質問の回答状況に応じて0~10点で評価し、総合計で100点とした。

\* 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町 17-8 mutsuhito.terauchi@kjo.setsunan.ac.jp

<sup>\*1</sup> 2020年度の春の設置を目指して、1学部(農学部:仮称)4学科を認可申請準備中である。

### 3 生活・意識の実態調査

学生の生活状況や勉学に対する意識が学修に与える影響は大きい。これらを詳細に調査することは多くのデータを得るという点で望ましいが、多くの時間を必要とするとも学生への負担が増し、調査結果に悪影響を与える危険性も生じる。そこで、大学 IR コンソーシアム<sup>\*2</sup> の設置する IR システムにて公表している調査票一覧<sup>\*3</sup> を参考に以下のような分類の質問を用意した。

表 1 生活・意識の実態調査アンケートの概要

質問分類	質問数	質問対象	
日常生活	2 問	新入生	在学生
授業経験	14 問		在学生
学習態度	14 問		在学生
週当たりの活動時間	8 問		在学生
英語検定試験の経験	6 問	新入生	在学生
英語圏への渡航経験	1 問	新入生	在学生
大学生生活への適応	8 問		在学生
大学教育への期待度	12 問	新入生	
大学の設備・サービスへの期待度	9 問	新入生	
大学教育への満足度	12 問		在学生
大学の設備・サービスへの満足度	9 問		在学生
学修と進路	4 問	新入生	在学生
入試関連	2 問	新入生	
高校での学び・経験	12 問	新入生	
	合計	48 問	78 問

質問や選択肢の詳細については発表時に示す。

### 4 学生の基礎能力調査

以前実施していた外部テストにおいては、グラフや表のデータの読み取り等の複合的な問題が出題されていたが、経験のないものが作成・評価するのは難しい。そこで基礎的な問題だけを扱うことにした。本学では、以前より就職活動でよく実施される SPI テストを自己学習する *e-learning* システムを導入していた。<sup>\*4</sup> 就職部が就職活動前の学生に一齐に模擬試験を実施したり、キャリア教育の中で利用されたりしてきたが、利用頻度はあまり高くなかった。このうちの「模擬試験」の言語能力テスト 40 問、非言語能力テスト 30 問を使用して入学時、および 1 年生の冬と 2 年生以上は毎年秋から冬にかけてテストを受けて基礎能力を調査する。この調査を機会に SPI テストへの関心が高まり、積極的に自習する習慣ができることを期待している。

### 5 おわりに

3 つの学生調査の概要を紹介したが、まだ予備調査の段階であり、様々な方面からのご意見やコメントを伺いたい。IR にはデータが必要であり、個々の学生の学修に関連する情報を探ることは学生に寄り添うことに通じると信じている。来年度の初めから本格実施の予定なので、さらに内容を詰めていければと考えている。

<sup>\*2</sup> 一般社団法人 大学 IR コンソーシアム <http://www.irnw.jp>

<sup>\*3</sup> IRiS: <https://iris.irnw.jp/survey>

<sup>\*4</sup> ラインズ株式会社: <http://education.jp/>